作物名
（ 2020 ）年 度 委 託　　（ チャ ）

対象病害虫名　カンザワハダニ

試験場名　一般社団法人　日本植物防疫協会　茨城研究所

担当者氏名　日植防　太郎

1. 試 験 目 的　防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法　試験地場所　茨城県牛久市結束町 535　一般社団法人日本植物防疫協会　茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況　少発生 (放虫)

耕種概要（品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載）

品種：やぶきた　樹齢：45年生　露地栽培　土性：植壌土

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤：7 月 5 日　D 顆粒水和剤

区制・面積・試験区の構成　1 区 9.0 ㎡（1.8m×5.0m）　3 連制

1－Ⅰ	2－Ⅰ		3－Ⅱ	
	3－Ⅰ		1－Ⅲ	2－Ⅲ
	1－Ⅱ	2－Ⅱ		3－Ⅲ

1:A フロアブル　2:B 乳剤　3:無処理区　Ⅰ Ⅱ Ⅲは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

（処理年月日）　2020 年 6 月 18 日

（処理時の作物のステージ）　萌芽前

（処理方法）　背負式バッテリー噴霧機を用いて 400L/10a相当量を散布した。

（処理前後の降雨影響）　6/18 に 10mm の降水量が観測されたが、処理 10 時間後の降雨であり、試験に影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
平均気温(℃)	22.0	21.0	25.0	24.0	26.0	27.5	25.0	30.0	29.0	25.0	26.5	22.0	23.5
降水量(mm)	10.0	0.0	0.0	5.0	14.5	4.0	25.0	1.0	4.5	19.0	3.5	0.0	2.0

月日	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
平均気温(℃)	25.0	24.0	22.0	24.0	26.0	22.0	26.0	25.0	25.5
降水量(mm)	3.0	0.0	0.0	0.0	15.0	2.0	0.0	0.0	0.0

観測地点：茨城県竜ケ崎アメダスデータ

調査月日・方法（月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載）

（調査月日）　処理前(6月 18 日)、同 7 日後(6月 25 日)、同 14 日後(7月2日)、同 21 日後(7月9日)

（調査方法）　区内中央付近より 40 葉を任意に採取し、幼・若虫数、成虫を計数した。各区の防除率を次式により算出した。

防除率(%)＝(1－Cb/Tb×Ta/Ca)×100

Cb：無処理区の散布前生息数　Ca：無処理区の散布 7 日後・14 日後・21 日後の生息数の合計

Tb：処理区の散布前生息数　Ta：処理区の散布 7 日後・14 日後・21 日後の生息数の合計

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。＋＋：中程度の薬害症状を認める。

＋＋＋：重度の薬害症状を認める。

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載）

コメントの追加 [WU1]: 学名の表記方法について(例)
2021 年度より学名の記載は省略可能です。

コメントの追加 [F2]: 放虫した場合は記載。

コメントの追加 [J3]: 土性の表記について
壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述。

コメントの追加 [J4]: 試験期間中の防除薬剤(殺菌又は殺虫剤)について
使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [J5]: 試験区の構成
各区の位置関係がわかるように配置図を記載する。

コメントの追加 [J6]: 気象条件について
・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。
・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [J7]: 調査月日・調査方法について
薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。
複数処理の場合は最新処理からの日数を記載。
例：第 2 回処理 3 日後、最終処理 7 日後等
調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。
薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [J8]: 特記事項、放虫、生物農薬の品質チェック等
放虫した場合はここに記載。虫の由来(採集時期、場所)や放虫方法(放虫量や場所、薬剤処理との時間的関係)を記載
天敵農薬を使用した場合は使用前の製品の品質についても記入

作物名
（ 2020 ）年 度 委 託　　（ チャ ）

対象病害虫名　カンザワハダニ

試験場名　一般社団法人　日本植物防疫協会　茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	調査時期	20葉あたり虫数									防除効率	薬害		
			I		II		III		合計				6/25,7/2,9		
			幼若虫	成虫	幼若虫	成虫	幼若虫	成虫	幼若虫	成虫	計		I	II	III
22) Aフロアブル	5000倍散布	散布前	311	64	506	134	303	97	1120	295	1415		－	－	－
新規化合物 10%		7日後	55	19	220	24	74	10	349	53	402	72.7			
		14日後	13	6	13	19	11	7	37	32	69	86.8			
Lot. No. ABC-123		21日後	23	5	5	6	11	3	39	14	53	28.8			
対照 B乳剤	1000倍散布	散布前	742	139	781	176	331	86	1154	401	1555		－	－	－
既知化合物 20%		7日後	26	7	70	19	93	18	189	44	233	85.6			
		14日後	1	24	2	14	31	13	34	51	85	85.2			
		21日後	27	0	0	2	10	2	37	4	41	49.9			
無 処 理	－	散布前	751	129	318	75	381	75	1450	279	1729				
		7日後	510	82	401	25	669	114	1580	221	1801	－			
		14日後	78	49	118	56	252	85	448	190	638				
		21日後	13	0	23	2	53	0	89	2	91				

コメントの追加 [J9]: 試験成績について

・結果を表形式で記載。

・連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、平均値または合計値も表示する。

・評価するための指数(防除率、被害防止率、補正密度指数、対無処理比、等)も記載する。

・薬害は調査時期がわかるように表記。

・2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては表を末尾に記載しても可。

4. 考察

散布 21 日後には無処理の虫数が激減したため、実用性の判定は散布 14 日後までの防除効率で行った。

コメントの追加 [J10]: 考察について

・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。

22) A フロアブル　5000 倍散布　BBB-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理と比較して効果はあった。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。